

まちかね Vol.9 ミュージアム

発行 / 2025.3.17

発行者 / 大阪大学総合学術博物館

〒560-0043

大阪府豊中市待兼山町 1-20

博物館ホームページ URL

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp>



大阪大学総合学術博物館 特別展 生誕 100 周年記念
松本奉山ー水墨画で世界を描くー
The World in Ink: MATSUMOTO HOZAN at100.
2025. 4. 26 Sat — 2025. 6. 28 Sat



松本奉山（1925～2010、本名：松本由美子）は、水墨画で世界を描いた女性の画家です。大正 14 年（1925）愛媛県今治市に生まれ、昭和 13 年（1938）神戸市灘区に移り住み、17 歳で松本尚山（1886～1970）の内弟子となり、厳しい指導のもと鍛錬を積み

ました。最初、油絵志望であった奉山は「水墨画で自分の描きたいものが描けるのか」という葛藤を抱えていましたが、昭和 38 年（1963）の初渡米をきっかけに新たな画境を切り開き、前例のない水墨画を作り上げました。その後も、オーストラリア、ニュージーランド、ヨーロッパ各国、ブラジル、トルコなどで個展や席上揮毫を行い世界をまたにかけて活躍しました。一方で、兵庫や琵琶湖、故郷の瀬戸内海など、日本の静かな風景に心を惹かれ連作を発表しました。本展覧会では、奉山の初期から晩年にいたるまでの作品、スケッチブックなど、およそ 100 点を展示いたします。そのなかには、平成 7 年（1995）の阪神・淡路大震災で全壊した奉山の画室から救い出された資料も含まれています。今年は奉山の生誕 100 年であると同時に、阪神・淡路大震災から 30 年になります。この節目の年に、これまで未紹介であった作品を展示公開することで、奉山の功績を後世へ引き継ぐことができれば幸いです。

会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階 多目的室
入場：無料

時間：10 時 30 分～17 時 00 分（最終入場 16 時 30 分）

期間：2025 年 4 月 26 日（土）～2025 年 6 月 28 日（土）

※日曜・祝日休館。ただし、5 月 3 日（土・祝）

はいちよう祭のため開館

※会期内に展示替を予定しています。

主催：大阪大学総合学術博物館

協力：今治城、大本山摩耶山天上寺、松本奉山水墨画会、

大阪大学大学院人文学研究科、大阪大学文学部

後援：神戸新聞社

< 展示構成（予定） >

序章 美山から奉山へ ー 厳しい修行時代ー

1 章 HOZAN 開眼 ー 世界へ羽ばたく水墨画ー

2 章 静かな風景に心惹かれて ー 日本美の再発見ー

3 章 奉山芸術の到達点 ー 墨色が奏でる最弱音（ピアノ ニッシモ）ー

終章 受け継がれる奉山の教え

< 関連書籍 >

※ 2025 年 4 月下旬に、本展覧会の関連図録（大阪大学総合学術博物館叢書・大阪大学出版会）を刊行いたします。



松本奉山 43 歳
ストックホルムにて

< 関連イベント >

●ミュージアムレクチャー

5 月 10 日（土）14 時 00 分～15 時 30 分

「異色の女性水墨画家、松本奉山の筆あと」

講師：岡 泰正（神戸市立小磯記念美術館／神戸ゆかりの美術館 館長）

会場：大阪大学総合学術博物館 3 階セミナー室

☆展示室でギャラリートークも行います！

参加：無料

定員：30 名（事前申込制、先着順）空きがあれば当日参加も可能です。

申込方法：4 月 1 日（火）から申込フォームを博物館 HP で公開予定

●ミュージアムレクチャー

5 月 17 日（土）14 時 00 分～15 時 30 分

「対談トーク 私が奉山先生から学んだこと」

飯嶋伸山・上斗米成山・杉本桂山（松本奉山水墨画会）

インタビュアー：波瀬山祥子（大阪大学総合学術博物館 研究支援推進員）

会場：大阪大学総合学術博物館 3 階セミナー室

参加：無料

定員：30名（事前申込制、先着順）空きがあれば当日参加も可能です。

申込方法：4月1日（火）から申込フォームを博物館HPで公開予定

●ワークショップ

6月7日（土）14時00分～16時00分

「簡単？むずかしい？水墨画にチャレンジ！」

講師：松本奉山水墨画会（関西）

会場：大阪大学総合学術博物館 3階セミナー室

参加：無料

対象：小学生～大人（小学生以下は保護者の同伴が必要です）

定員：15名（事前申込制、先着順）

申込方法：4月1日（火）から申込フォームを博物館HPで公開予定

※硯をお持ちの方はご持参ください。

<お問い合わせ>

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20

Tel 06-6850-6284(10時30分～17時00分/日・祝休館)

<同時期開催！>

神戸市立小磯記念美術館でも奉山の作品が展示されます！

〔特別陳列〕戦後神戸の女性画家二人展

松本奉山・中島節子 ー日本画・洋画 抽象の試みー

会期：2025年4月11日（金）～6月22日（日）

会場：神戸市立小磯記念美術館

是非本展と合わせてご覧ください。展覧会の詳細・アクセスは美術館HPをご確認ください。

<https://www.city.kobe.lg.jp/kanko/bunka/bunkashisetsu/koisogallery/index.html>

活動報告

豊中市立学校 理科展 サテライト展示

期間：2024年12月7日（土）～12月14日（土）

主催：大阪大学総合学術博物館

共催：豊中市教育委員会／豊中市教育センター

後援：豊中市

今年の豊中市立学校理科展に出品された児童・生徒の自由研究作品160点から選ばれた優秀作品12点を大阪大学総合学術博物館で展示しました。

大阪大学総合学術博物館では、豊中市立学校理科展に出品された作品の中で特に優秀な作品を選び、表彰をしています。今回、展示された作品は以下の各賞を受賞された作品です。

展示作品

★ジャイロ効果について調べる（南部陽一郎賞・大阪府学生科学賞佳作）

★紙くずを丸めて投げるとごみ箱に命中するのはなぜ？（大阪大学総合学術博物館長賞・大阪府学生科学賞佳作）

★様々な場所のプランクトン（大阪大学総合学術博物館長賞・大阪府学生科学賞佳作）

★水の浸食作用の受け方 受けやすさとその条件（大阪大学総合学術博物館待兼山賞・大阪府学生科学賞佳作）

★ゆるるブランコ～ふりこのしくみ～（大阪大学総合学術博物館待兼山賞・大阪府学生科学賞佳作）

★そうめんをおいしく食べる方法（豊中市教育センターあすなろ賞・大阪府学生科学賞佳作）

★かたつむりのなぞ（豊中市教育センターあすなろ賞・大阪府学生科学賞佳作）

★フクロウの羽根で扇風機？PART2～アゲハチョウとアホウドリで風量アップ大作戦～（大阪府学生科学賞大阪市教育委員会賞優秀作品）

★色とりどりの食べ物（大阪府学生科学賞佳作）

★空と時刻（大阪府学生科学賞佳作）

★かんたん！防音対策2!!～身近なもので防音するには～（大阪府学生科学賞大阪府教育委員会賞優秀作品）

★黒曜石と他の鉱石で物は切れるのか。（大阪府学生科学賞佳作）



サイエンスカフェ@待兼山

No.178 嗅覚マスキングのしくみ

竹内 裕子（大阪大学大学院生命機能研究科 准教授）

2025年2月1日（土）14:30～16:00

各回30名

「嗅覚マスキング」という言葉を知っていますか？匂いを感じにくくなるこの現象はしくみが発見されていない古代から使われてきました。そもそも、どうやって私達は匂いを感じているのでしょうか。匂いを感じるしくみと感じなくなるしくみは同じ細胞が担っています。匂いを感じるしくみを説明した後、実際に匂いを嗅いで嗅覚を働かせながら「嗅覚マスキング」を体験しました。

サイエンスカフェ@中央公民館

No.179 男は仕事、女は家事？その価値観が社会に与える影響を考えよう！

阪本 諒（大阪大学社会経済研究所 特任研究員）

2025年2月8日（土）14：30～16：00

無料／各回 30 名

「男は仕事、女は家事」という伝統的な価値観は、今でも社会に影響を与えているのでしょうか？この講演では、日本や世界での違いや変化をわかりやすく解説し、この価値観が私たちの日常や将来にどう影響しているのか、データと経済学のフレームワークを使って一緒に考えました。

No.180 日露戦争記念碑を読み解く —大阪の村と出征者—

船越 幹央（大阪大学総合学術博物館 副館長）

2025年3月1日（土）14：30～16：00

無料／30 名

日本とロシアが戦った日露戦争（1904～1905年）は国家をあげた総力戦となり、多くの国民が兵士として戦地に赴き、戦場で命を失った人々もいました。大阪市の周縁部にある村々では戦争後に記念碑が建てられ、出征者や戦没者の名を刻みました。記念碑の碑文を読み解きながら、地域の人々にとって日露戦争とは何だったかを考えました。

No.181 虐待を経験した方への法的支援について：未来へ進むために

斉田 夕奈（大阪大学大学院法学研究科 博士後期課程）

2025年3月15日（土）14：30～16：00

無料／30 名

子ども虐待は、社会的に大きな課題であり続けていますが、虐待環境から離れたのちの困難については、十分に光が当たっていません。今回は“虐待のその後”を手掛かりに、さまざまな困難と法的支援の可能性について共有させていただき、簡単に割り切れない問題を一緒に見ていきました。

体験型イベント

neo マチアルキ vol.1 grid & undulation

現在と過去を往復しながら、都市空間をフィールドワークする——neo マチアルキは、1：マチの今を観察し、2：マチの昔にさかのぼって、3：マチの変化とこれからを考える。そんな体験型イベントです。

neo マチアルキ vol.1:grid & undulation では、大阪・ミナミの一面と、上町台地の南に広がる凹凸のある住宅街が訪問地です。

コースNo.1 2025年2月23日（日）13：30～16：00
【ショートコース】（徒歩約 3.5km 程度）

大阪ミナミ・島之内～道頓堀～千日前を歩く
コースNo.2 2025年3月9日（日）13：30～16：30
【ロングコース】（徒歩約 5.5km 程度）
上町台地南部・天下茶屋～阿倍野区の凹凸の街並みを歩く

定員：各回 15 名（先着順）

参加費：無料／雨天決行

主催者：大阪大学ミュージアム・リンクス（大阪大学総合学術博物館、大阪大学適塾記念センター、大阪大学アーカイブズ）

企画・案内：

船越幹央（大阪大学総合学術博物館 副館長／ミュージアム・リンクス 教授）

大阪大学ミュージアム・リンクス 講座

「大阪文化の多様性と創造性をさぐる —地域の歴史に即して—」

船場と美術 伝統と今が会う街

本シンポジウムでは、多くの商家が並び町人文化の中心地であった大阪の「船場」に焦点を当て、大阪がどのように経済と文化を育んできたのかを振り返りました。

船場は、豊臣秀吉および江戸幕府によって城下町開発が進められるなかで形成され、整然とした街区が整備されました。「天下の台所」と謳われた江戸時代には、全国から人・物・情報が集まる経済都市へと発展します。

同時に、町人文化が花開き独自の美術・芸能・文芸が誕生しました。近代にはいり、1925年の市域拡張により成立した「大大阪」の時代には、モダニズムを表現する近代都市となりました。

今回、歴史と伝統が色濃く残る船場の文化的遺産について、大学・美術館・



出版社の3つの分野から有識者を招き、多角的な視点から探求しました。時代と共に変化を受け入れつつも、商都・大阪の中心地として独自の文化を培ってきた船場の姿から、大阪の文化的価値や未来像を考えました。

日時：2025年2月15日（土）13時30分～16時00分（受付は13時から）
会場：大阪美術倶楽部 新館1階扇の間（大阪市中央区今橋2丁目4-5）
参加：無料 定員：30名

第9回兼任教員コラム

博物館は各研究科の先生方に兼任教員をして頂いています。このコーナーでは兼任教員の方の活動をご紹介します。

菅 真城（かん まさき）
大阪大学ミュージアム・リンクス教授
大阪大学アーカイブズ兼任教員
大阪大学総合学術博物館兼任教員

私は、文書館設置準備室講師時代から総合学術博物館（以下、「博物館」）兼任教員をしています。博物館とは、資料の受け入れ先協議、展覧会の共催などをしてきました。

博物館は、旧制浪速高等学校（以下、「浪高」）の建物を使用されていることから、文書館設置準備室が設置される以前に、浪高同窓会から資料の寄贈を受けていました。文書館設置が検討されるようになると、浪高資料の目録が作成されました。これは、私が大阪大学に赴任する以前の事です。大阪大学のルーツとなるもう一つの旧制高等学校に、旧制大阪高等学校（以下、大高）があります。大高同窓会とは私が交渉して、その資料を博物館に寄贈してもらいました。そういうわけで、大阪大学では旧制高校に関する資料を、アーカイブズでなく博物館が所蔵しています。

資料部の先生とは、学内外からの資料寄贈申込みに際して、博物館とアーカイブズのどちらで所蔵するのがよいか、協議してきました。

アーカイブズは何度か博物館と展覧会を共催してきましたが、最初の国立公文書館所蔵資料展「国立公文書館が大阪大学にやってきた」（2013.2.22～2013.3.9）が最も深く関わりました。国立公文書館では、この年から

所蔵資料をより多くの方々にご覧いただくため、館蔵資料による展示会を全国の公文書館、博物館等で開催するようになりました。この展覧会は公募により行われます。アーカイブズには展示施設が無いので、博物館に協力を求めました。前例がないので、大阪大学でその要件に応えられるか不安覚えながら応募したところ、採用されました。応募・実施に当たっては、当時の博物館長の橋爪節也先生を初め博物館の先生方にご協力いただきました。同年1月の京都府立総合資料館（当時）が最初の国立公文書館館外展で、大阪大学は2例目になります。コピーの中に、「全国の大学で初めて」を謳いました。現在に至るまで、大学で館外展を開催したのは大阪大学だけです。主催：独立行政法人国立公文書館、共催：大阪大学アーカイブズ・大阪大学総合学術博物館、協力：大阪大学21世紀懐徳堂という形を取りました。

この展覧会のほか、総合学術博物館第9回特別展「嗚呼黎明は近づけり 友よ我らぞ光よと～よみがえる旧制高校 大高・浪高の記憶と記録～」(2016.4.27～2016.7.9)は、前述した博物館所蔵の旧制高校資料をメインに、アーカイブズ所蔵資料も出陳しました。写真はアーカイブズ所蔵のものを多く使用しました。大阪大学創立90周年/大阪外国語大学創立100周年記念事業大学創立周年記念展「街に生きる学問－学都大阪の礎・つなぎあう想い－」(2021.4.27～2021.8.10)もアーカイブズが共催しました。

ミュージアム・リンクスが発足してからは、アーカイブズは博物館とより近い存在になりました。適塾記念センターを含めて、新たな展開をしたいと考えています。



編集後記

本年度のサイエンスカフェは、No178 以外は中央公民館にてハイブリッド形式で行いました。すでに開催の終了している展覧会やイベントが多くなっていることをお詫びします。（豊田）

大阪大学総合学術博物館ニュースレター
まちかねミュージアム
発行日 2025年3月17日
編集発行 大阪大学総合学術博物館
グローバル情報委員会
〒560-0043
大阪府豊中市待兼山町1-20
大阪大学総合学術博物館 事務室
Tel : 06-6850-6284
<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/>